

第3回今後の自動車事故対策勘定のあり方に関する検討会 議事概要

1. 日 時:令和3年10月28日(水)13時00分~14時30分
2. 場 所:web 会議形式
3. 出席者:赤間委員、小沢委員、金子委員、桑山委員、古謝委員、坂口委員、佐藤委員、徳政委員、戸崎委員、福田委員、藤田委員、楨委員、麦倉委員
4. 議事(概要)
 - (1) 事務局から資料1及び資料2に沿って説明を行い、その後委員の皆様と意見交換を行った。

〔議題4 意見交換における委員からの主な意見〕

【一般会計からの繰戻し・安定的な財源の確保関連】

- ・ 被害者救済対策は必要であるが、財源確保としては繰戻しが第一。大臣間合意の更新にあたって、返済のロードマップを示すよう再三要望している。必要な繰戻し額の議論があった後に、その不足分の手当として賦課金導入の議論になるのではないか。
- ・ 繰戻しの大幅な増額は見込めず、現行のスキームでは事業を継続できないのは共通の認識。繰戻しについての懸念は当然とは思いますが、賦課金によって財源の安定化を図るのは喫緊の課題。事業を安定的に継続するための賦課金額や支出規模のイメージについて、具体的な議論が必要。現実的になりすぎず、現状に拘泥せずに可能性を議論していかないと行き詰まるのではないかと懸念。
- ・ 歳出の不断の見直し、繰戻し、安定的な財源の確保は三位一体である。将来的にいくら積立金に残すかに応じて、賦課金の徴収額と求める繰戻し額が決まってくる。これらの比率は議論次第だが、少なくとも繰戻しと賦課金を一体として考えた方が、議論は進むだろう。
- ・ 運用益で被害者救済事業をやっているならば賦課金を上げる必要はないのではないかとという声に対し、納得のいく説明することが大事。
- ・ 財源確保の順序の重要性は理解するが、順序を重視した結果として議論が遅れること懸念。将来的に歳出が拡大する中で、早い段階で少額の賦課金を積み立てて、安定的な財源を確保していくべき。できれば、ユーザー団体の広報啓発活動の中に賦課金制度や事故防止を組み入れていただきたい。
- ・ 貸している側が苦勞するのはどうなのか。状況からして一括での全額繰戻しは難しいとしても、新たな大臣間合意について議論するタイミングであることから、安定的な財源確保についてどのように盛り込むのか、その戦術について知恵を出し合うことが必要。また、三位一体という考え方は理解するが、その中でも順序がある。大臣間合意の中で完済に向け具体的にどのようにして返済されるかの約束があれば、ユーザー負担となる賦課金の議論にも入れるのではないか。
- ・ 繰戻しは優先して行われなければならない。一方で現在の財源スキームでは行き詰っている。具体的に必要な金額を示してもらえれば、話が進みやすい。
- ・ 繰戻しが増えたとしても恒久財源ではないことから、賦課金の議論は不可避であり、将来的な見通しを立てるべき。また、賦課金の導入と繰戻しを実施について、実際の執行に順番はあったとしても、意思決定は一体でなければならない。

【財源の使途関連】

- ・ 被害者のため、保障勘定の賦課金の使途の拡大と充実を図ることについては国民含め反対する人はいないと思う。その使途については被害者救済対策を最優先すべきだと考えるが、事故発生防止対策の重要性に鑑み、被害者救済対策と両輪で進めていくことが最も望ましいと思料。
- ・ 賦課金を考える上で支出の見直しは不可欠。生活が枯渇していくことで、行く病院を選ばなければならず、最後は命を落としてしまう例もあった。自動車社会全体の被害者と捉えて、自動車事故の被害者の家族が崩壊するようなことが今後起こらないように考えてほしい。
- ・ 近年、自賠責の保険料が低下している要因として、自動車の安全性が向上していることが挙げられるが、各メーカーにおいてコストが重視される中で安全性は優先されにくく、NCAP(自動車アセスメント)などの事故防止対策による影響は大きい。被害者救済は重要であるが、事故防止対策によって将来の被害者が減少するということを考えると、安易に劣後すべきでない。
- ・ 被害者支援も重要であるが、事故防止も被害者を少なくするという観点で非常に重要。そもそも事故ゼロになれば今日のような議論はいらぬが、現状は難しい。被害者救済対策、事故防止対策は両輪で考えることが大切。日本の高水準を守るという意味では国交省の事業は必要。
- ・ 支出の見直しは重要だが、NCAP など求められている施策を廃止することではなく、本当に無駄なものを精査すべきということ。被害者団体側もユーザー団体・一般国民から理解頂くためには、真に必要なものを要望することが必要
- ・ 賦課金導入に際しては、JA などで実施している使途の精査をしていくことが大切。保障勘定の賦課金はひき逃げ・無保険車との事故に備えた財源なので、何かしら分離は必要。

以 上